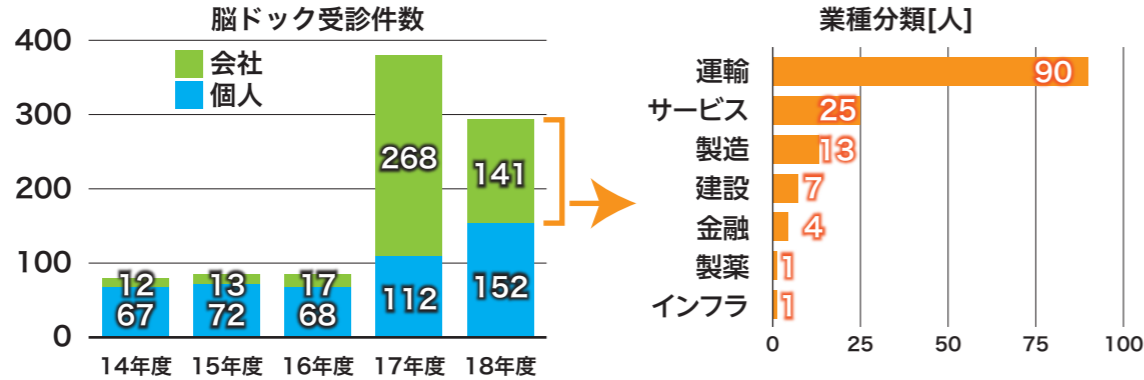


当院からのお知らせ

脳ドック！ご好評いただいております

脳卒中を未然に防ごう！

各種メディアを通して「健康寿命を延ばしましょう！」という言葉をよく目にされるのではないのでしょうか？そうした社会全体の健康意識の増進を受けてか、近年脳ドックを受診される方が増えております。個人様からのお問い合わせだけでなく、企業様からのご依頼も多くなってきております。少子高齢化が進む中、働き手を確保するためのイメージ戦略であったり、職員の高齢化や就労年齢の延長を受けて、中高年職員の健康管理をより充実させたいとの思いをご担当者様からよく耳にします。当院としても、そういった企業努力やリスク管理の面において、健康面からお手伝いさせていただけると大変光栄に思います。



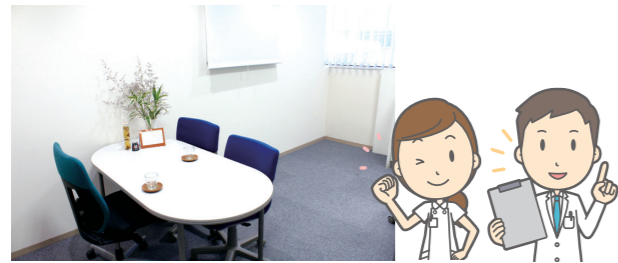
\*企業様向けに脳ドックの営業活動を行っております。コース内容や、運営方法など、検討する中でご不明な点があればいつでもご相談ください。御社までご説明に伺います。

担当:総務課 石川・検査課 岩田

くまのう相談室

～医療相談室ができました～

脳血管疾患でご入院される患者様やそのご家族様の多くが、今後の生活に不安を抱えています。今までは居室にて相談を受けておりましたが、気兼ねなく相談できる場所として、医療相談室ができました。相談に来られた方がリラックスしてお話しでき、心配事や不安を解消できるようお手伝いをしていきます。お気軽にご相談ください。



元気の源

～管理栄養士による講演を行いました～

当院が地域の皆様に向けて定期的に行っている医療講演会「脳カフェ」に、今回管理栄養士が登場し、「栄養と水分補給」をテーマにお話しして参りました。「分かっているけど変えられない」のが食生活だと諦めかけていた方々にも、今一度食事の大切さを再認識していただけたのではないかと思います。心と体の元気の源、それが食事ですね！

バランスのとれた食事がもたらす5つの効果

- ①健康維持 ②生活リズムが整う
- ③体重の増減が減り、安定する
- ④腸内環境が整う ⑤自律神経が整う

水分補給がもたらす3つの効果

- ①脱水症・熱中症の予防 ②脳の活性化
- ③イライラや気分の落ち込みの解消



編集後記

脳卒中の初期対応「FAST:ファスト」は覚えて頂けましたでしょうか？ご来院する患者様の中には、「2～3日前から調子が悪くて・・・」といったように時間を空けて病院を受診し、検査の結果脳卒中だった、ということがしばしばあります。少しでも脳卒中の心配があるならば、「これくらい大丈夫だろう」「様子を見てみよう」という判断をしてはいけません。すぐに病院を受診しましょう。FASTの「T:タイム(時間)」が重要です！

医療法人 熊愛会 (ゆうあいかい)  
**熊本脳神経外科病院**

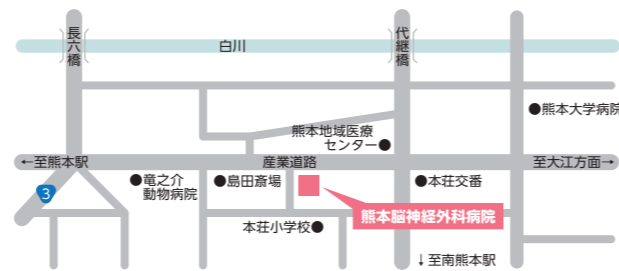
〒860-0811 熊本市中央区本荘6丁目1-21

Tel.096-372-3911 Fax.096-372-3922

E-mail:info@knh.co.jp

http://www.knh.co.jp

詳しい内容はホームページをご覧ください。



熊本脳神経外科病院 広報誌

このは Kumamoto Neurosurgical Hospital

令和元年

10月 vol.6



写真の model 管理栄養士 中川 明日可 / 入職 1 年目 (写真右)

マイブーム: 最近はロイヤルミルクティー味のタピオカを飲むのにはまっています。

仕事への意気込み: 新参者ですが、患者様に「美味しい」と言って頂ける料理が提供できるように日々頑張っています。

管理栄養士 田中 里美 / 入職 9 年目 (写真左)

マイブーム: 国内旅行に行くことです。見たことのない景色やその土地ならではの料理を食べ歩くことがとても楽しくリフレッシュできます。

仕事への意気込み: 患者様ひとりひとり食事の内容が異なるため、病気に合わせた食事を患者様に美味しく頂いてもらうよう心掛けていきたいと思っています。

Contents

特集 ミニ脳カフェ 「当院が担う救急医療について」

- ・縁の下のコメディカル
- ・当院からのお知らせ
- ・くまのう相談室
- ・元気の源

「脳卒中の初期対応 ～合言葉はFAST～」  
 「脳ドック!ご好評頂いております」  
 「医療相談室ができました」  
 「管理栄養士による講演を行いました」



ミニ脳カフェ

## 当院が担う救急医療について

皆さん、こんにちは。今回は当病院が行う救急医療についてお話をさせていただきます。

### 「救急指定病院」それぞれの役割について。

一般的に救急医療とは、「救急病態」を扱う医療のことといわれています。救急病態とは、時間とともに病態が急速に変化し、その間の適切な処置の有無が症状の改善もしくは悪化を大きく左右する状態をいいます。そして、救急医療受け入れ可能な病院を「救急指定病院」といい、重症度と緊急性から一次、二次、三次救急に分けられています。

一次救急は初期救急とも呼ばれ、入院の必要がなく帰宅可能な軽症患者に対して行う救急医療のことです。二次救急は、「24時間体制で救急患者の受け入れが可能であること」「手術を含めた入院治療が提供できる設備が整っていること」「救急医療の知識と経験が豊富な医師が常駐していること」「専用病床が整備されていること」といった条件を満たしている病院です。三次救急は、一次や二次救急では対応できない重症・重篤患者に対して行う救急医療であり、その指定を受けている病院には救命センターや高度救命救急センターが設けられており、24時間体制で救急患者の受け入れを行っています。

### 当院が担う救急医療。～24時間365日、地域医療に貢献します～

当院は脳神経の専門病院として救急指定病院の認定を受け、一次及び二次救急の受け入れを行っています。平成30年度に当院で受け入れた救急患者の数は364名で(図1)、そのうち104名の患者様が入院されています(図2)。症状の種類としては、頭部外傷が一番多くなっています。頭部外傷の中にも、皮下血腫・裂創のような軽症のものから、急性硬膜下血腫や外傷性くも膜下出血のように、重症かつ全身管理が必要な状態の場合もあり、状況に合わせて素早く正確に対処する必要があります。次に多いのはめまい症です。その大部分は、動けない、目が開けられない、嘔吐・嘔気があるといった症状がほとんどです。また、けいれん発作での搬入も多く、長く続く発作や反復する発作のように、比較的重症な症例を多く経験します。その他、頭痛や手足の脱力等を主訴に搬入され、検査の結果脳卒中(脳梗塞、脳出血)であったという患者様も多くいらっしゃいます。

救急医療に対応するスタッフとしては、休日夜間も含め脳神経外科もしくは救急科の医師が常駐しており、看護師やコメディカルスタッフも含め、いつ患者様が来院されても迅速な検査と適切な治療が行えるよう、24時間365日体制で取り組んでいます。また、脳卒中の場合には早期にリハビリを導入することで後遺症を最小限に抑えられることからリハビリの充実も重要視しており、十分なスタッフを配置しております。このように「早期の診断・治療にリハビリを加えた一連の急性期医療」を提供できる体制・設備を整えているという点が当院の特徴です。当院は、昭和51年開設以来、脳神経外科の専門病院として地域の救急診療に貢献して参りました。引き続きこれからも「断らない医療」を念頭にいかなくとも救急医療を途切れさせず、地域医療に貢献できるよう職員一丸となり取り組んで参ります。

### 症状に応じて適切な病院を選びましょう。お困り際にはいつでもご連絡ください。

一般的に「救急で受診するならば救命救急センターや大きな総合病院の救急外来だ」と思われることが多いですが、「中小規模でも救急受け入れを行っている専門病院がある」ということを是非知って頂きたいと思います。受診する病院に迷った際には、症状や状態に応じて受診する救急指定病院を選ばれると良いと思います。一方で、「動けない」「意識がはっきりしない」といったように重篤な症状の場合には、迷わず直ぐに救急車を呼んでください。また、「頭の具合が悪いけれども病院を受診するかどうかわからない」という場合には、当院までお気軽にお問い合わせください。看護師が状態に併せてご案内いたします。

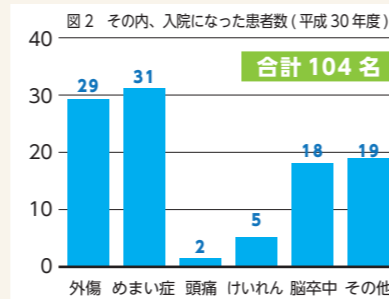
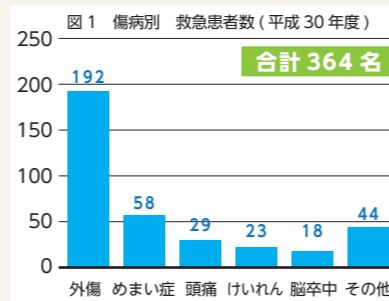
#### 冬田 修平 (ふゆた しゅうへい)【救急科専門医】

経歴 平成16年3月 福岡大学医学部卒業  
平成18年4月 久留米大学医学部救急医学講座入職  
平成22年4月 救急振興財団 救命救急研究所出向

資格 平成22年1月 日本救急医学会 救急科専門医取得



講師の先生

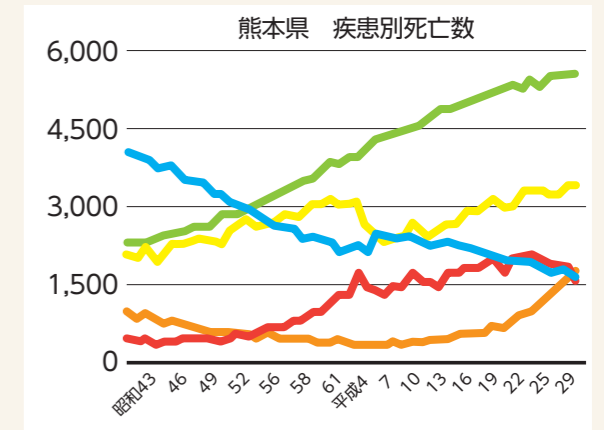


縁の下のコメディカル

## 脳卒中の初期対応 ～合言葉はFAST～

脳血管の障害による病気を総称して脳血管疾患といいます。熊本県の発表によると、平成29年の脳血管疾患による死亡数は年間1663名に及び、悪性新生物(癌)、心疾患、老衰、について第4位となっています。近年減少傾向にはあるものの、私たち日本人にとって依然として身近な病気であるといえます。その中でも脳血管が詰まることで脳細胞が虚血状態(酸素・栄養不足)になる病態を虚血性脳血管疾患といい、脳血管が破れて出血をきたす病態を出血性脳血管疾患といいます。前者を代表する疾患としては脳梗塞、後者を代表する疾患としては脳出血やくも膜下出血があり、主にこの3つを総称して「脳卒中」と呼んでいます。

それら脳卒中の最も恐ろしい点は、「前触れもなく突然発症する」ということです。もしも自分が、あるいは自分にとって大切な人がある日突然脳卒中になってしまったら、それに気づいて適切に行動できるでしょうか?今回は、脳卒中の初期対応の際に役立つポイントをご紹介します。合言葉は「FAST:ファスト」です!



● 脳血管疾患 ● 老衰  
● 悪性新生物(腫瘍) ● 肺炎  
● 心疾患(高血圧性を除く)

### FAST:ファストとは?

脳卒中の初期対応を啓発するために米国脳卒中協会から提唱された標語で、Face(フェイス:顔)、Arm(アーム:腕)、Speech(スピーチ:会話)、Time(タイム:時間)の4つの頭文字を並べたものです。それぞれのポイントに沿って簡単なテストを行うことで、脳卒中の可能性を確かめます。1つでも該当すれば脳卒中の可能性が高いと考えられます。



Face

### Face (フェイス:顔)

顔の麻痺は脳卒中の典型的な症状です。顔の片側が下がったり、ゆがんだりします。

CHECK!! うまく笑うことができるかどうかを Check!!

### Arm (アーム:腕)

手足の症状は両側でなく、片側に発症します。片腕だけ力が入らないのが特徴です。

CHECK!! 両腕を同じように上げることができるかどうかを Check!!



Arm



Speech

### Speech(スピーチ:会話)

呂律が回らない、言葉が出てこないといった症状が現れます。本人は無自覚でも、ご家族が気づくことがあります。

CHECK!! 短い文章をいつも通り話せるかを Check!!

### Time (タイム:時間)

脳卒中が疑われるときには、いち早く専門病院を受診しましょう。特に脳梗塞の場合は、発症してから数時間以内に治療を開始すれば、後遺症を最小限に食い止めることができる可能性があります。また、症状がある中で車を運転して病院へ行くことは危険な上、時間のロスにもつながります。たとえ症状が軽いと思う場合でも救急車を利用して下さい。併せて、「何時に発症したのか」という情報があると治療がスムーズに行なえます。

CHECK!! ためらわずに救急車を呼びましょう!! 発症時間を確認しましょう!!



Time

上記のポイントに沿って初期対応をとることで、治療までの時間が短縮でき、脳卒中による影響を最小限に留めることができます。みなさんにとって大切な方を守るために、是非覚えておいてください。一方で、もともと脳卒中は生活習慣病の延長線上にあるため、脳卒中にならないためには、適度な運動やバランスの良い食生活、適正飲酒、禁煙を日頃から心がけることが大切です。また、現在の脳の健康状態を確認できる脳ドックの受診もオススメしております。健康意識を持つきっかけになり、近年受診者数は増加しております。ご興味のある方はいつでもご相談ください。